

## 2014 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 1 月 30 日作成)

小委員会名	都市環境気候図実用化検討小委員会	主 査 名：清田 誠良 就任年月：2012 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)	委員長名：田辺 新一 主 査 名：下田 吉之
設 置 期 間	2012 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>実社会の建築・都市づくりに資する都市環境気候図（日本版クリマアトラス）の仕様、および、その活用手法を検討することを目的とする。</p> <p>初年度：  <ul style="list-style-type: none"> <li>・第 6 回独日都市気候学会議の開催</li> <li>・都市環境気候図に関わる事例・動向調査</li> </ul> </p> <p>2 年度：  <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市環境気候図に関わる事例・動向調査</li> </ul> </p> <p>3 年度：  <ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会での活用を念頭においた都市環境気候図の仕様検討</li> <li>・都市環境気候図の活用例の提案、成果の出版</li> </ul> </p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：清田誠良（広島工業大学） 幹事：田中貴宏（広島大学） 委員：岩井一博（信州大学）、鍵屋浩司（国土技術政策総合研究所）、十二村佳樹（岐阜大学）、竹林英樹（神戸大学）、鍋島美奈子（大阪市立大学）、鳴海大典（横浜国立大学）、増田幸宏（豊橋技術科学大学）、宮崎ひろ志（関西大学）、依田浩敏（近畿大学）、渡邊浩文（東北工業大学）	
設置 WG (WG 名：目的)		
2014 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 第 7 回独日都市気候学会議にて、ドイツの研究者との意見交換を行った。 2. 事例に関して調査を行い、文献リストを作成した。 3.
委員会活動の問題点 ・課題	1. 当初より予定していた、成果をまとめた出版計画が遅れている。 2. 3.

- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。
- \* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- \* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

## 2014 年度 小委員会活動 自己評価

### (最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	(B)	C	D
<p style="text-align: center;"><b>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</b></p>	<p>「都市環境気候図実用化検討小委員会」では、研究等の事例リスト作成、およびそれをもとにした委員会内での議論、2 回の独日都市気候学会議での議論を通して、都市環境気候図（クリマアトラス）の実用化について検討を行ってきた。その結果、ユーザーニーズの把握、温暖化適応の観点の取り込みといった実用化に向けた課題について明確化がなされた。なお、来年度より新たに「都市環境気候図体系検討小委員会」を設置し、本小委員会で明らかとなった課題をベースとし、体系検討、事例集作成を行うこととした。</p> <p>独日都市気候学会議の開催など、国際的な研究交流の場をつくったこと、都市環境気候図実用化についての課題を明確化できた点については、当初の目的を達成できたものと考えられる。しかし、当初より予定していた書籍出版が遅れていることは反省すべき点と考える。よって、<b>B</b> 判定とした。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。